グローバルＣＯＥプログラム「コンフリクトの人文学国際研究教育拠点」
「コンフリクトの人文学」セミナー　第 67 回

〈報告 1〉

新しくやってくる人たち
－外国人研修生･技能実習生を中心に－

大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 特任研究員

崔 博憲

1980 年代以降、日本に暮らす外国人は増加、多様化を続け、現在その数と国籍は、それぞれ約 220 万人 190 ヶ国となり、2007 年には韓国朝鮮人にかわって中国人が在日外国人の最大集団となった。こうした変化のなか、合法的に単純労働に従事する外国人も増えている。その多くは日系人と外国人研修生・技能実習生である。ここでは外国人研修生・技能実習生に注目し、かれらがどのような労働に従事し、いかなる困難に出会っているのかを示したうえで、ときに日本の労働者ではありえない労働条件を「自発的」に受け入れるかれらをどのようにとらえるべきなのかということについて考えてみたい。

【報告者略歴】

さいひろのり。大阪大学大学院文学研究科単位取得退学、博士（文学)。専門は、マイノリティ論。タイ山岳民族や在日韓国朝鮮人、外国人研修生・技能実習生を対象に、マイノリティを生きるという意味について考察を行っている。博士論文として「マイノリティを生きるということ――あるいは蝙蝠であるということ」（2009 年)、近著に『新しいニューカマーと親密圏――東南アジア出身の外国人研修生･実習生を中心に』(京都大学グローバル COE ワーキングペーパー、近刊）などがある。

〈報告 2〉

インドネシア、西ティモールにおける貧困と日常と

大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 特任研究員

森田 良成

インドネシア、東ヌサ・トゥンガラ州の西ティモールは、貧困、低開発の問題が長く指摘されてきた地域であり、農民の生活は「緊急性と慢性的な性質が組み合わさった危険な栄養状態」と評価され、現在も多くの開発プロジェクトが行われている。この報告では、各種のサービスへのアクセスや、収入・支出の額や消費の内訳などの指標から構成された「貧困問題」と、それらの指標から再構成することのできない農民たちの日常の連続した風景との、共約不可能なズレについて考える。

【報告者略歴】

もりたよしなり。2010 年、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。専門は文化人類学。インドネシア、西ティモールにおける農民の経済に関心がある。業績に、「貧乏――『カネがない』とはどういうことか」（春日直樹編『人類学で世界をみる』、2008 年）、『貧困を再理解する――インドネシア、西ティモールの廃品回収人の民族誌』（博士学位論文、2010 年）などがある。本 GCOE プログラムにおいては映像作品の制作にも取り組んでいる。

日時：2011 年 5 月 25 日（水）　17：30　～　19：30
会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）　東館 1 階　106 講義室　（参加無料）

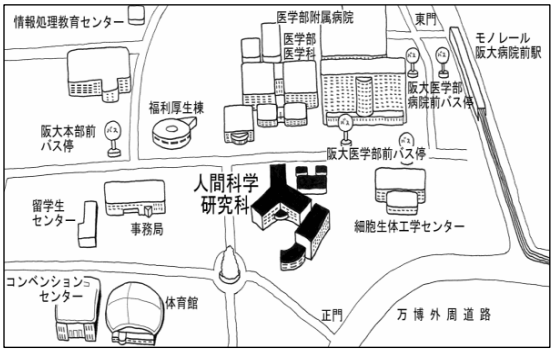
東館は万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは http://www.hus.osaka-u.ac.jp をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085/06-6877-5111



なおこのセミナーは、「コンフリクトの人文学特講」「コンフリクトの人文学特別講義」に相当し、履修可能です。